

# 北陸石仏の会々報

第59号

令和元年12月20日発行

編集と発行

**北陸石仏の会**

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・地蔵半跏像と石動修験
- ・旧志雄町の半跏地蔵
- ・「男女宮」の双体道祖神
- ・「聖徳太子二歳像」
- ・第58回例会報告
- ・第59回例会計画

## 地蔵半跏像と石動修験

尾田 武雄

先日北陸石仏の会副会長の滝本やすし氏から電話があり、石川県志雄町散田の元十村役の旧家山岸宅(通称弥与どん)にあったとされる中世の石造物の地蔵半跏像は現在松浦氏宅に安置されていた。それが元あったとされる愛宕社に戻されたという。散田には藩政期には氏神が釈迦、地蔵であり、山伏金性院が支配をしていた。明治の神仏分離で、神体であった本地仏は、山岸氏に預けられ、当家が無住になり近くに松浦氏宅が保管されるようになったのである。私が調査に入ったのが平成五年であった。松浦家ではご神体として丁寧に管理されていた。桐箱に入るその地蔵半跏像は光背の左半分が欠け、

頭部も右半分が欠落していた。このことについて松浦繁男(明治四十一年生)は「頭が欠けているのは魂が抜かれているためだ」と言われ、強く印象に残っている。



散田の地蔵半跏像

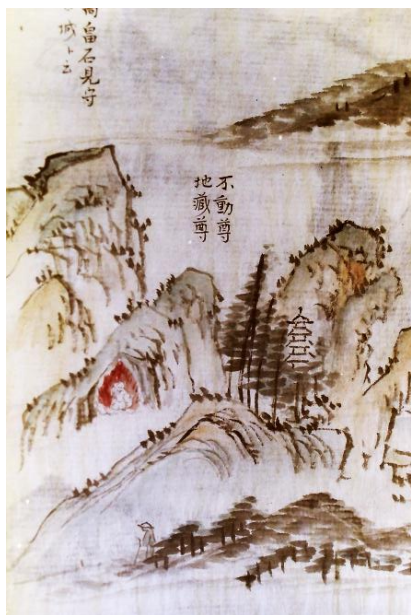
砺波地方や能登半島広く造像されるこの像の多くは、神社周辺で見かけることが多い。また砺波地方では氷見市の藪田石製のものがほとんどである。神社も白山系や石動山修験の関りが強く感じられるのである。

富山市四方に四方神社がある。元は石動大宮と称したその由来書「田島家の旧記、三十四代田島長敏」(『四方郷土史話』)には次のようにある。

当所ノ石動社御由来ハ本地地蔵尊ニテ、皇女現ワレ御示ニハ、左ニ如意ノ宝珠ヲ御持、右ニ金剛輪ヲ給フ御像ナリ

石動社の本地仏を左手に宝珠、右に錫杖を持つ延命地蔵だとしている。また白山比咩神社がある鶴来町にはカタガリ地蔵と言われる半跏像がある。この地蔵について「白山諸雑事記」(『白山比咩神社史』)所収「妙法の石室と石窟仏」には「泰澄ノ像ヲ彫刻セリ、今カタガリ地蔵ト呼ヘリ」とある。十四世紀の造像とされる。

神社周辺に見られる中世期に造られたと思われる地蔵半跏像は、砺波地方や能登地方の石動山信仰の流布の強さを知るとき、石動山修験の影響が強かったと思われる。



矢田四如軒著「吉野邨領十景記行」より

## 石川県旧志雄町の半跏地蔵

滝本 やすし

石川県旧志雄町（現在の宝達志水町北部）に、中世の石造半跏地蔵を四体確認している。由来等不明のものがほとんどであるが、現状を報告したい。

## ①宝達志水町散田 愛宕神社

前ページの尾田武雄氏の報告をご覧いただきたい。現在は愛宕神社境内に新しい小祠が建てられ、松浦家に保管されていた際の厨子がそのまま納められている。

## ②宝達志水町石坂 白山神社

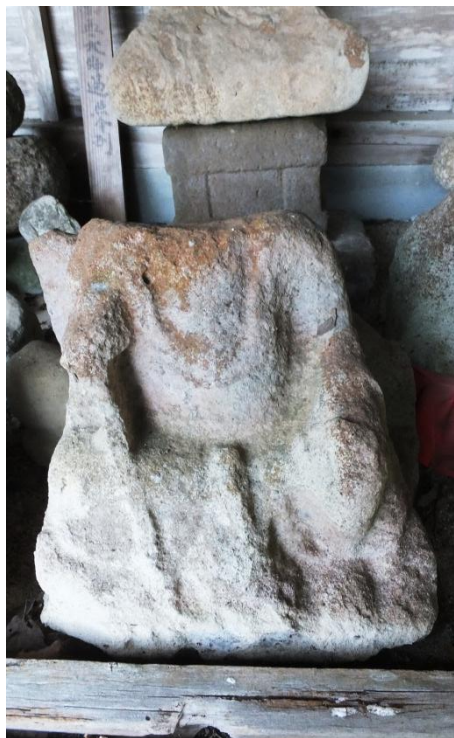
石坂集落の南の外れに白山神社が建てられており、本殿内に御神体として祀られている。頭部が削り落とされ、錫杖や宝珠も欠落している。藪田石製で、高さ55 cm、幅37 cm。

## ③宝達志水町二口 路傍

二口集落中央の路傍に木造の祠が建てられており、五輪塔陽刻板碑二基と共に御神体として祀られている。藪田石製で、頭部と宝珠が削り落とされている。高さ55 cm、幅35 cm。

## ④宝達志水町杉野屋 夢違観音参道

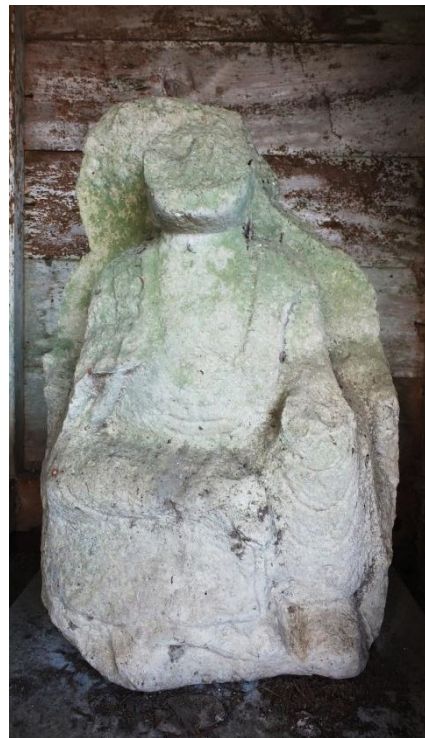
杉野屋集落の外れに観音堂が建てられており、神仏分離の際に天満宮から移された観音像（夢違観音）が祀られている。参道の地蔵堂内に五輪塔や如来形座像など十数基の中世石造物が納められている。その中に石造の半跏地蔵がみられる。砂岩製で、首から上が完全に削り落とされている。天満宮に合祀された白山神社から移されたのではないかと思われる。採寸していない。



杉野屋 夢違観音参道の地蔵堂内



二口 路傍の祠内



石坂 白山神社本殿内

# 富山市東猪谷「男女宮」の双体道祖神

平井 一雄

富山県富山市の北陸電力猪谷発電所水槽の下隣に五体の双体道祖神が祀られたコンクリートのお堂がある。前は露座で並べてあったが二度にわたる道路工事で現在の場所になったという。お堂の敷地は、後ろの家、坂上隆市家の地所で全体を坂上さんが管理されておられる。右端の道祖神は坂上さんの先祖が建立されたものだそうです。坂上隆市さん談。

この場所は「サイノカミ」いわれていてサイノカミ(道祖神)は禁忌の兄妹相姦(近親婚)のいわれがあり、道の下(シモ)側に安置されているものだとされる。左端の道祖神は他の像と異なり中国か韓国風の衣服を着用している。「梵字キヤ」「男女宮」「大正六年建立」「橋場キク」の刻銘がある。

建立者の橋場キクさんは東猪谷、後藤家の先祖に縁ある人で、橋場は薄波の橋番人をしておられた木地家の屋号である。

この像とそっくりな道祖神が岐阜県飛騨市西茂住白山神社境内にある。

「男女宮」とは星曼荼羅十二宮の一つで(ナンニョキユウ)と読む。星曼荼羅は古代の星占いから始まったとされ北斗曼荼羅とも呼ばれている。星曼荼羅供養は平安時代から行われている。

星の供養は天変地異や疫病などの災いを払い、息災延命を祈る。星曼荼羅に登場する仏様は、一字金輪仏頂中心に、北斗七星、九曜星、十二宮、二十八宿などがある。十二宮は春分点を起点とし黄道を十二等分した各点の称で、古くはこれを星座と見て居たが仏教に於ては、これが人類の禍福災祥を左右し人の運命を支配する力が籠っているものと信ぜられていた。

男女宮は双子座で芒種から夏至までをいう。

『諸宗佛像図彙』は、江戸時代に描かれた仏画集。全五巻土佐秀信画。元禄三年(一六九〇年)の刊。

如来、菩薩から鬼神、曆神、習合神に至るまで、諸仏の図像を載録し、さ

らに仏具祭器を描いて、画工等が参考書としたもの。

石工さんたちも依頼された石仏などを作る時に参考にしたのであろう。

道祖神の名では図像が載っていない「男女宮」が双体道祖神にふさわしいとおもってこの石像をつくられたのでなからうか。



飛騨市西茂住 白山神社境内



富山市東猪谷 坂上隆市宅前

宮 女 男 夫

四



明治増補諸宗佛像圖彙 十二宮より

# 富山市婦中町田屋の「聖徳太子二歳像」

松井 兵英

砺波地方の「聖徳太子南無仏二歳像」の由来と分布については、北陸石仏の会事務局長の尾田武雄氏が詳しく研究・発表されています。その中には富山市（大沢野町）松野の石黒さん宅のように、砺波から移住されてお祀りされている例もあります。

先日、婦中町田屋の杉原神社周辺を歩きました。杉原神社は婦負郡の延喜式内七社の一つで、現在は合場川に沿って上流から、八尾町黒田、婦中町浜子、婦中町田屋の三社があります。田屋杉原神社の北側、吉田公貴さん宅地内東にお堂があり、左から聖観音菩薩、厨子に入った聖徳太子南無仏二歳像、地藏菩薩が祀られています。ちょうど奥さんが庭におられたので扉を開けて写真を撮る許可をもらい、「何か太子像の謂れは？」と聞いたのですが、「先祖から聞いておけばよかったけどよくわからない」と言われました。

集落やお講などの辻堂ではなく、吉田さん宅一軒だけでお祀りされている屋敷仏のようです。お寺は八尾町深谷の曹洞宗「祇樹寺」とのことでした。吉田さん宅の像も、尾田氏の著書『とやまの石仏たち』の写真と文章で親しんでいた聖徳太子二歳像だったので、懐かしいような気持ちで拝観したのですが、なんとかこの像の由来を知る手がかりはないものでしょうか。

婦中町の隣町、八尾町「聞名寺」には太子堂があり、神岡常蓮寺の「太子踊り」とも関わりがあるようです。また北側の八尾総産土神「八幡社」は、葛城官司の祖卜丸正位房が金剛堂山にて勧請した蔵王権現と聖徳太子を祀り、合祀された八尾字滝谷の産土神は（祭神 聖徳太子）ということも気になります。また、婦中、山田、八尾の山間部には木の「うろ」に祀られた太子二歳像が点在しています。古い時代の太子信仰の断片を残しているように感じられます。

← お堂の外観 左は杉原神社



← 堂内の様子



← 右 地藏菩薩坐像



← 中央 聖徳太子二歳像 台石含め  
高さ四五cm位 首が修理されている



← 左 聖観音菩薩  
台石には法名などが記されている



## 第58回例会報告 福井県旧金津町の石仏めぐり

尾田 武雄

令和元年十月六日(日曜日)に、滝本やすし氏と酒井靖春氏の車に便乗して北陸高速道を走り、まず滝の雨請堂の不動明王と八大龍王を拝見する。地元学区長さんと総代さんの立会いのもと堂内に入れさせていただいた。集落はずれの小高い山の頂上にあり三間四面の木造の御堂である。しつかり鍵が掛けられ、滝本氏のご配慮により地元の人により開けられた。そこには中央に不動明王立像があり、左右に脇侍に制多迦童子と矜羯羅童子を配している。その横に並列して、八大竜王を一石に二尊を刻んでいる。浮彫りであるが丸彫りのような厚肉彫りである。滝本氏の調査の深さに裏付けられ適切な説明に、納得と感動を受けた。今回例会の最大の拝観所であった。

路傍にある滝の太子堂は明治二十五年五月に建立されたと聞き、砺波地方の聖徳太子南無仏は明治二十年代からの造像であり、職人の人びとによる時期に、同じように造立された心情に心に触れることができた。多賀谷左近三経墓所の大きい宝篋印塔に感動し、笏谷石製の六地藏の大きさと緻密できれいな浮き彫りに目を目張った。山十楽白山堂の本殿石祠の中に垣間見える白山三所権現は中央に十一面観音、向かって左に阿弥陀如来、右に聖観音が笏谷石に浮き彫りに刻まれている。石祠前の灯籠竿に「白山妙理大権現 寛文二壬寅(一六六二) ■道作 五月十八日 施主道念」とある。山十楽の神明宮本殿石祠の雨宝童子を拝見した。雨宝童子については清王金峰神社の神明神社石祠内の、雨宝童子も拝見した。笏谷石製の石祠前には、日月の窓がありその間に神明のことである「新命」と刻まれている。前面扉の左右には「元和四年(一六一九)六月 ■」と刻まれている。富山県内でも近世初期から伊勢信仰の流布が認められているので、合致していると感心した。

熊坂の路傍には熊坂大仏の向かいに小堂があり、そこに所狭しく十王、司命、脱衣婆、半跏地藏が入っている。十王の首は、ほぞがありさし首のよう

になっている。石仏で十王がこのようなセッソトになってるのは珍しく、北陸三県ではここだけであろうと思われる。造像に意図は分からないという。最後に宇根 畝畦寺跡に行く。畝畦寺跡に行く道にはイノシシ防御柵がありそれを外しての拝観である。西国三十三ヶ所観音や泰澄大師、鳥枢沙摩明王にお会いした。またこの地方では珍しい関東型狛犬にも会い、大きい収獲であった。帰り道では熊に出会い、滝の雨請堂では熊蜂、高速道路では猿に出会うハプニングがあったが有意義な例会であった。今回もまた滝本やすし氏の御案内に感謝申し上げます。

滝の雨請堂にて記念撮影



## 北陸石仏の会第59回例会の計画

次回の例会は石川県旧志雄町(現在の宝達志水町北部)の石仏めぐりを計画しています。2ページに掲載した半跏地蔵をはじめ、下記の石仏等を見学したいと考えています。詳細は4月上旬発行予定の次号でお知らせします。



地蔵



胎蔵界大日真言塔



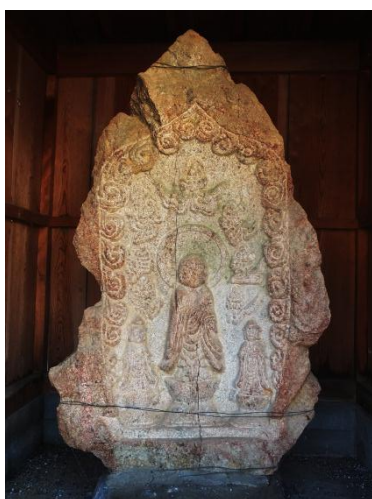
不動明王



五輪塔群



板碑群



善光寺式阿弥陀三尊



鬼子母神



阿弥陀如来

令和2年度の会費を同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。